鹿児島県奄美パーク 事業報告書

2012 Leaf



目 次

Ι	居	퇺児島県奄美パーク概要・・・・・・	
П	7	☑成24年度の事業実績について・・	
Ш	有	5美の郷企画事業・・・・・・・・	
	1	季節感(年中行事)を取り入れたイベントの開催	
	(1) あまみっ子フェスタ (2) 第6回奄美パー	- クわらべ島唄大会 (3)ネリヤカナヤフェスタ
	(4) サマーコンサート (5) フユウンメコン	サート (6) 初春唄あしび
	(7)奄美パーク春まつり ~シマジマだより~	(8) 奄美パーク春まつり ~サンガツサンチ~
	2	奄美の郷ライブステージ	
	(1)5月「でぃ・まーじんま!!第7弾」	(2) 6月「汝きゃ我きゃ島唄しょーろ~」
	(3)10月「長月に舞う」	(4) 11月「かさん唄への誘い」
	(5)2月「徳之島の伝統芸能」	
	3	その他の自主・共催事業	
	(1) けんむんクイズラリー	(2) 第2回ケンムンふぇすた
	(3)奄美パーク文化講演会「現世の平家物語」	(4) 文化の日イベント
	(5) 第6回こどもクリスマス会	(6) クリスマスコンサート
	(7)奄美パーク新春寄席	(8) 冬休み小中学生限定抽選会
	4	ライブステージ in パーク事業	
	(1)島唄あしび in 奄美パーク (2)カサン・ヒ	ギャ・唄くらべ (3)瀬戸内ひぎゃ節・舞踊祭り
	(4) バレンタイン・コンサート (5)スプリング	コンサート (6)ミニコンサート
IV	B		
	1	奄美関係作家展	
	(1) 名瀬美術協会シルバー展 (2) 県美展奄	美関連作家展
	2	田中一村鑑賞会	
3 田中一村記念スケッチコンクール作品展			品展
	4 第11回奄美を描く美術展		
	5	その他企画展	
	(1)ニッコールクラブ奄美群島支部写真展	(2) 南溟館所蔵「風の芸術展受賞作品」展
	(3)笠利地域小・中学校図画工作・美術科学習	発表展
	(4)小牟禮雄一絵画展 森海のリリシズム	⑸ 短歌展 ~はらからの愛と絆~
	(6)大高芸術祭	
	6	ワークショップ他	
	(1)夏休み親子スケッチ大会	②)夏休み親子ワークショップ「泥染」
)創作体験教室「あなたも私も一村!」	
V	•		2 8
VI	有	E美パーク応援隊について・・・・・	3 3

I 鹿児島県奄美パーク概要

1 施設の目的

鹿児島県奄美パークは、奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホールや奄美シアター、人々の交流の場を提供するイベント広場からなる「奄美の郷」と、奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島全体の新たな観光拠点として、奄美市笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

- 2 設置者 鹿児島県
- **3 開園年月日** 平成13年9月30日
- 5 **園長兼館長** 宮崎 緑(千葉商科大学政策情報学部長、NHK「NC9」初の女性ニュース キャスター)
- 6 **園地面積** 約77,000㎡
- **7 総事業費** 約78億円
- 8 施設の概要
- **(1)奄美の郷**(延べ床面積約3,200 m²)

白い貝殻をイメージした外観。建物内の梁などは、琉球松の大断面集成材でソテツの葉を イメージした造形。

- ○総合展示ホール, 奄美シアター(有料)
- ○アイランドインフォメーション,イベント広場,レストラン,売店
- **(2)**田中一村記念美術館(延べ床面積約2,490 m²)

奄美の海をイメージした池に3棟の高倉が浮かぶ設計。床はイタジイを使用。

- ○常設展示室,特別展示室(有料)
- ○企画展示室、ガイダンス室、図書資料室、喫茶・ミュージアムショップ
- (3) 一村の杜(面積7,000m²,平成19年7月20日完成)

6つのスポットで構成されている遊歩道。田中一村の奄美での作品に描かれている草木を植栽。 それぞれのスポットで作品に描かれている風景を鑑賞。

(4)その他の施設

- ○多目的広場(約3,780㎡), 野外ステージ, 展望台, 駐車場(約240台)
- 9 観覧料金 共通観覧料:一般600円(20人以上の団体は480円)

高・大学生400円(同320円)小・中学生300円(同240円)

10 休 園 日 毎月第1,第3水曜日(祝日の場合は翌日)

 $(4/29\sim5/5, 7/21\sim8/31, 12/30\sim1/3 は開園)$

- 11 開園時間 9:00~18:00 (7月,8月は19:00まで)
- 12 入園者数 平成25年3月末現在 延べ1,719千人

13 組織図



Ⅱ 平成24年度の事業実績について

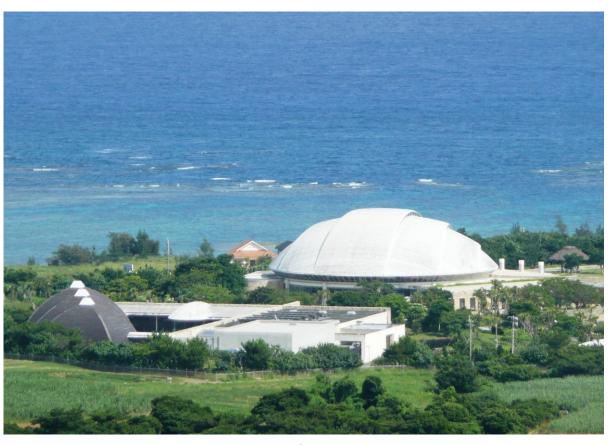
「奄美パーク」は、奄美群島の観光拠点の一つとして、また、奄美群島に居住する方の交流等を目的に、奄美の自然、歴史、多様な文化を紹介する「奄美の郷」と奄美の自然を描き集大成させた孤高の画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」を中核に平成13年にオープンしました。平成25年3月末現在、約172万人の入館者がありました。

「奄美の郷」では、主に「イベント広場」でシマ唄、伝統芸能、踊り等で構成するイベントを開催し、「田中一村記念美術館」では常設展示の他、「企画展示室」において奄美関係作家展、奄美を描く美術展、創作体験教室などを開催しています。

特に24年度は沖縄県が日本復帰40周年記念の年にあたり、3月下旬から5月上旬まで、沖縄県立博物館・美術館において田中一村展が開催され、多くの沖縄県民が訪れました。また、7月下旬から8月下旬にかけて、能登やすらぎの郷聖徳太子殿天井画修復記念として、石川県立美術館において田中一村展が開催され、多くの方々に観覧していただきました。

これらの事業の実施により、奄美の多様な文化や自然等の魅力を観光客に紹介すると ともに地元の方々の交流も図りました。

平成25年度は、奄美群島日本復帰60周年の年になりますので各種イベントを計画 しております。今後とも地元の皆様とともに歩んでいく奄美パークを目指し、皆様から の助言や力添えをいただきながら事業を展開していきたいと考えておりますので、よろ しくお願いいたします。



Ⅲ 奄美の郷企画事業

1 季節感(年中行事)を取り入れたイベントの開催

(1) あまみっ子フェスタ

日時:平成24年5月4日(金)13:30~15:30

場所:イベント広場及び出会いの広場 入場者数:約420名

内容: 子どもの日にちなみ,子ども達を対象にしたイベントを開催した。 当初,屋外多目的広場を計画していたが,早く梅雨入りしたことか ら,場所を屋内イベント広場に変更して実施した。

最初は節田小学校アマンディー太鼓の力強い太鼓演奏があり、観客を魅了した。その後、3D紙芝居の梅ちゃんによるショーがあり、オリジナル紙芝居を題材に、話の中に観客を登場させるなどしながら、バルーンアートや皿回し、南京玉すだれなどのパフォーマンスを披露し、子ども達をはじめ多くの観客の笑いを誘い、楽しませた。その後、イベント広場後方では奄美手熟師会による竹とんぼ、ナリ細工などの親子手作り教室や出会いの広場では奄美市レクリエーション協会による風車、バルーンアート、紙トンボづくり、お手玉、コマ回しなどの昔の遊び、ニュースポーツなど様々なワークショップが催され、親子連れや友人同士で製作や遊びの体験が行われた。

ステージ後半は、レクリエーション協会によるジャンケン遊びや輪になって踊るなどのレクリエーションが行われ、子どもや親も一緒になって音楽に合わせて身体を動かした。最後に参加者プレゼントの配布を行い閉会した。

(2) 第6回奄美パークわらべ島唄大会

日時:平成24年5月5日(土) 10:00~15:00 場所:イベント広場 入場者数:約240名

内容: 奄美の将来を担う子供(あまみっ子)たちが、シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深めるとともに技法を学び、シマ唄文化を広く後世に伝える目的で開催した。オープニングには、審査対象外だが、4名の保育園児達が唄を披露し会を盛り上げてくれた。

また、ゲストとして平成23年度優勝者の濵井南咲希さん、笠利 ひさなさんの他、高校生の平田まりなさん、全国大会優勝者である 楠田莉子さん、住姫乃さんのシマ唄もあり来園者は楽しんでいた。

小学校低学年の部に22名,小学校高学年の部に19名,中学生の部に12名の57名の参加者があり,昨年度に比べ17名増え熱戦が繰り広げられた。また,今回の特徴として喜界島や鹿児島など島外からの参加者が増えるとともに,受賞者はこれまでは女子がほとんどであったが,男子が3人受賞しその健闘ぶりがうかがえた。













(3) ネリヤカナヤフェスタ

【開催期間:平成24年7月16日(月)~9月2日(日)】

①オープニングイベント

日時:平成24年7月16日(月)13:30~15:30

場所:イベント広場 入場者数:約510名

内容: 笠利ジャンベクラブによるアフリカの太鼓演奏やフラカオスタジオによる総勢約60名でのフラダンス,大島高等学校新体操部によるシマの文化を取り入れた優雅な新体操,赤木名中学校2年生の楠田莉子氏によるシマ唄,古仁屋小学校4年生の安大智氏による昭和歌謡のピアノ弾き語りとバラエティ豊かでオープニングイベントにふさわしいステージとなった。



期間:平成24年7月16日(月)~9月2日(日)

場所: 各アイランドインフォメーションガラスケース内, 奄美シアター付近

内容: 奄美シアター付近にプロダイバー青木良貴氏,原英之氏の「奄美 の海の写真」,アクセサリーになるまでの制作工程を紹介した「夜 光貝」を展示した。

また,各アイランドインフォメーションガラスケース内には,奄 美海洋展示館から借用の奄美の伝統行事等を貝殻で表現した「貝細 工」を展示した。

同期間中,「第2回ケンムンふぇすた」の展示(ケンムン大賞作品展,小浜晋ブナガヤイラスト展,常田守「ケンムンの棲む木」写真展)もあり,館内は多くの展示物で溢れ,賑わっていた。

期間中の入場者数:10,062名

③親子手作り教室 (麻ひもと貝殻で作るアクセサリー)

日時:平成24年7月28日(土)13:00~15:00 場所:レクチャールーム 参加者数:30名

内容: 龍郷町在住の松田しのぶ氏を講師に親子手作り教室(麻ひもと貝殻で作るアクセサリー)を開催した。参加対象者は小学生以上で, 最年少の小学校1年生から成人男女の一人参加もあり,計30名が

参加した。

好きな貝殻や好きな色の麻ひもを選び、ブレスレットやネックレスなどのオリジナルアクセサリーを作った。全員完成させることができ、完成後、早速身につける姿が見受けられた。













(4) サマーコンサート

日時: 平成24年8月12日(日) 13:30~15:30

場所:イベント広場 入場者数:約310名

内容: 多くの観光客を迎えるこの時期に島の文化や芸能を島内外に紹介するイベントとしてサマーコンサートを行った。出演は童子八月踊り研究会,奄美大島うるまエイサー,南郷流舞踊教室,龍郷町懐メロ同好会の4団体で,今年度は沖縄の日本復帰40周年にあたることから,このことにも絡めて構成した。

最初は童子八月踊りで、観客席後方から太鼓の音を響かせ、踊りながら次々に舞台に上がり、それぞれの演目の内容や意味などの解説を合間に入れながら、合計8曲の演目を会員の子ども達を中心に力強く演じていた。次に、奄美大島うるまエイサーの第1部を優雅に演舞した。その後、南郷流舞踊教室の小学生や中学生の子ども達が琉球舞踊と日本舞踊を合計5曲、かわいらしく踊っていた。その後、龍郷町懐メロ同好会の生演奏による歌謡を合計12曲、約50分間、メンバーそれぞれの得意な曲をパフォーマンスも交えながら楽しく披露した。最後は、再び奄美大島うるまエイサーによる第2部の演舞で幕を閉じた。

観客も地元の方々はもとより観光で来られた方も多く,出演者の 演技に見入っており,大いに賑わった。



日時:平成24年12月2日(日)13:30~15:30

場所:イベント広場 入場者数:約310名

内容: 今回は太鼓や吹奏楽の楽器演奏,ダンス,伝統芸能で企画・構成 した。

最初に大島北高等学校北大島太鼓部による力強い和太鼓演奏に始まり、続いて西村ダンス教室の大勢の子ども達によるフラフープなどを用いた創作ダンスを2部構成で合計5曲を披露し、ダンスの1部終了後にアマービレ吹奏楽団による合計8曲の吹奏楽演奏があった。途中の島のブルースは、大島北高等学校の北大島太鼓部部員の歌とのコラボレーションで演奏した。また、クリスマスにちなんだ曲の演奏もあり、ロビーに飾られたクリスマスツリーと見事に調和して良い雰囲気を醸し出しており、来場者を魅了した。

最後は、瀬戸内町諸鈍に古くから伝わる国指定重要無形民俗文化 財である「諸鈍シバヤ」が解説とともに4演目披露され、普段は年 1回、現地でしか見る事のできない伝統芸能であるが、奄美パーク での実施により、多くの方々に直に見ていただくことができ、好評 を得た。会場は、終始多くのお客様で賑わっていた。













(6) 初春唄あしび

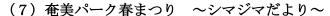
日時:平成25年1月3日(木)13:30~16:10

場所:イベント広場 入場者数:約360名

内容: 坪山豊さんの企画による新春恒例の「初春唄あしび」を開催した。 皆吉佐代子さんによる祝唄「長雲節」で始まり、他に9名のシマ 唄の出演、一条流紫寿音会による日本舞踊、柳清会本流琉舞道場に よる琉球舞踊、節田マンカイで構成され、全17演目が交互に披露 された。

その中で、シマ唄では子ども唄者の出演時にジャンベ演奏とのコラボレーションもあり、会場を盛り上げた。また、途中には節田マンカイ保存会による「正月マンカイ」で新年を華やかに祝った。

最後には出演者と来場者で六調を踊り閉会した。内容が多種多様 で充実した新年の始まりにふさわしいイベントとなった。



日時:平成25年2月10日(日)

(まち・むら自慢特産品バザール) 11:00~15:30

(ステージ) 13:30~15:30

場所: (まち・むら自慢特産品バザール) アイランドインフォメーション (ステージ) イベント広場

内容: 奄美群島の伝統芸能や活躍する人々を紹介するためのイベントと して開催した。

国内外で活躍する「かりゆしバンド」は、与論島からの出演で美しい歌声と柔らかなメロディーや賑やかな島唄で会場を盛り上げた。油井小学校子供育成会による島口劇「油井の豊年祭」は、一生懸命に島口で演じる子ども達に拍手が沸き起こった。国頭芸能保存会による伝統芸能「忍び踊り」は、沖永良部島からの出演で華やかな衣装で優雅な踊りを見せてくれた。シマユムタ伝える会による「島口ラジオ体操」は、島口によるラジオ体操で会場の皆さんと体操を楽しんだ。最後は、大和浜集落棒踊り保存会による「大和浜棒踊り」の勇壮で迫力のある踊りで締めくくった。

また、同時開催した「まち・むら自慢特産品バザール」では、味の郷「かさり」、チャレンジドの店「あしたば村」、大和まほろば館、奄旨海房魚匠の4店舗が出店した特産品の販売会があり、会場は賑わった。

入場者数:約270名













(8) 奄美パーク春まつり ~サンガツサンチ~

日時:平成25年3月3日(日)13:30~15:30

場所:イベント広場 入場者数:約230名

内容: サンガツサンチという女の子の節句にちなんで,女性の出演者で 構成したイベントを行った。

マカマカ・フラ・レアによるフラダンスは華やかな衣装で会場に 花を添えた。奄美オーケストラは女性だけのメンバーで出演し,春 が来た」や「仰げば尊し」など季節感のある選曲で会場を楽しませ た。網野子集落アンドンデー保存会による伝統芸能「アンドンデー」 は女性だけで踊られる珍しい踊りを披露し会場の注目を集めた。徳之 島在住の内山五織さんによる島唄は普段奄美では聞きなれない徳之島 だけでうたわれる唄で,かつ女性にちなんだ選曲を解説を交えながら 披露した。ラ・メール女声合唱団による女声合唱ではサンガツサンチ にふさわしい華やかな演出で盛り上げ,最後は東北支援ソング「花は 咲く」を観客と一緒に歌い締めくくった。

また,一般社団法人茶道裏千家淡交会奄美大島支部による「春の お茶会」もあり,参加者は呈茶を楽しんだ。

また、同時開催として大島支庁農政普及課主催による「平成24年 度奄美大島・喜界島地区フラワーコンテスト」もあり会場は華やかな 雰囲気で終始盛り上がった。







2 奄美の郷ライブステージ

(1) 5月ライブステージ(でい・まーじんま!!第7弾)

日時: 平成24年5月20日(日) 13:30~15:30

場所:イベント広場 入場者数:約220名

内容: 今年で7回目となる「島んちゅ会」によるライブステージ「でい・まーじんま!!第7弾」を開催した。ライブステージの前座に正午から午後1時までの1時間,龍郷町ナツメロ同好会による生バンド演奏が披露され、早くからイベント広場は賑わいを見せていた。島んちゅ会代表の福山幸司さん、平久美さんによる祝唄のオープニングから子供たちの島唄、舞踊、三線合奏、六調太鼓・六調などバラエティ豊かなプログラムで来場者を楽しませた。ステージフィナーレでは、牛の登場や出演者からのお菓子の手配りなどのサプライズもあり、来場者の笑顔が溢れていた。





(2) 6月ライブステージ(汝きゃ我きゃ島唄しょーろ~)

日時:平成24年6月17日(日)13:30~15:30

場所:イベント広場 入場者数:約180名

内容: 龍郷町島唄保存会による恒例のライブステージで, 当園では8回 目の開催となった。

長朝花節を始めとし、前半9曲・後半7曲の合計16曲の島唄を、 それぞれの曲で、唄者・三線・ハヤシと役割を交代しながら、たっ ぷりと披露し、聴く者を魅了した。

また合間には、「いきゅんにゃ加那」を12名の子どもの唄者と来場者との掛け合いにより唄い合い、最後には六調をベースにテンポの異なる天草・まご・ササ節などを出演者と来場者が一緒になって踊るなど、まさにサブタイトル「汝きゃ我きゃ島唄しょーろ~」

(あなた方と私達で島唄を唄いましょう)の通り、皆で参加して楽 しめるイベントとなった。





(3) 10月ライブステージ(長月に舞う)

日時: 平成24年10月7日(日) 13:30~15:30

場所:イベント広場 入場者数:243名

内容: 当初は9月17日(日)に開催予定であったが、台風16号の影響により延期となった。

玉城流琉扇會山元孝子琉舞道場による琉球舞踊,築地俊造さんによる島唄,高千穂流師範高千穂英駒さんによる日本舞踊,川畑和代さんによる功夫扇の演目で行われた。ステージの最後に,来場された限定100名様にペンをプレゼントした。





(4) 11月ライブステージ (かさん唄への誘い)

日時: 平成24年11月18日(日)13:30~15:45

場所:イベント広場 入場者数:145名

内容: 奄美の伝統芸能である島唄, 奄美大島北部のかさん唄を笠龍地区 民謡保存協会会員の28名でステージを構成した。若手からベテラ ンまでの持ち味を活かした島唄が披露され, お互いに唄・囃子をさ れる夫婦達や母娘などの島唄もあり, 終始アットホームな雰囲気が 漂っていた。





(5) 2月ライブステージ(徳之島の伝統芸能)

日時:平成25年2月16日(土) 13:30~15:45 場所:イベント広場 入場者数:約320名

内容: ステージでは、徳之島在住の小学生から80歳代までの約60名 が、徳之島の伝統芸能である島唄や踊り等6演目を演じた。

内容は、鹿浦小学校(伊仙町)による「島唄と鹿浦ソーラン」、 オヤジバンドまぶらい(徳之島町)による「ワイドワイド踊り」、 西阿木名民謡保存会(天城町)による「はまやきとおし」「むちた ぼり」、阿権小学校(伊仙町)による「竹踊り」、花徳稲すり節保存 会(徳之島町)による「稲すり節踊り」であった。

また、ステージの最後には徳之島の特産物が当たる抽選会を実施 するとともに、並行してアイランドインフォメーションでは、徳之 島の特産物の販売会も同時開催した。

会場は徳之島一色で賑わい、笑顔と笑い声が溢れていた。







3 その他の自主・共催事業

(1) けんむんクイズラリー

期間:平成24年4月28日(土)~5月6日(日)

場所: 奄美の郷及び田中一村記念美術館 参加者数:約226名

内容: 奄美の文化や歴史に関するクイズをパーク内に設置して行う「けんむんクイズラリー」を行った。ゴールデンウィーク中ということもあり、たくさんの参加者でにぎわった。奄美の文化や歴史を改めて学び知る機会になる等の意見が寄せられ好評であったので、常時継続的に行うこととした。

(2) 第2回ケンムンふぇすた

世界自然遺産を目指す奄美と沖縄に伝説として存在する妖精ケンムン(キジムナー)を活用し、自然 や文化の奥深さを探り、情報発信することを目的とする。ケンムン村・ケンムン村瀬戸内支部、奄美郷 土研究会、ホライゾン編集室、一般財団法人 南西地域産業活性化センターと共催で行った。

①妖怪シンポジウム

日時:平成24年7月28日(土) 13:00~17:00 場所: Ai Ai ひろば多目的ホール(奄美市名瀬)

入場者数:約150名

内容:(1) 基調講演 「愛しのけんむん」(映画監督 龍村仁氏)

- (2) 研究報告
- ・「琉球弧における自然遺産の視点から」(環境省自然保護官 田中準氏)
- ・「沖縄の妖怪と奄美の妖怪」

(琉球大学名誉教授・沖縄民俗学会会長 津波高志氏)

・「奄美における妖怪の捉え方―与論島の事例を中心に―」 (琉球大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程

(留学生) ヴェロニカ・マッザロ氏)

「民俗学から見た奄美の「けんむん」について」

(瀬戸内町図書館・郷土館学芸員 町健次郎氏)

「歴史学から見た「けんむん」について」

(奄美郷土研究会 弓削政己氏)

(3) シンポジウム

基調講演や研究発表を踏まえ、出演者がそれぞれの意見を交わしながらシマの環境や人、歴史、自然とのなりわい、都市の利用のあり方、それらをケンムンという記号に置き換え、語ることでこのシマにも求められているものは何か分かるのではないかと締めくくった。









②交流イベント

日時:平成24年7月29日(日)13:00~15:30

場所:イベント広場 入場者数:約450名

内容: 「ケンムン」そして沖縄で同様の妖怪「ブナガヤ(キジムナー)」 を広く知ってもらうための大人から子供まで楽しめるイベントとし て行った。

オープニングは昨年度、第一回ケンムンふぇすたに合わせて濱田 洋一郎と商工水産ズが作曲した「King Moon」に振付をして 節田保育所の幼児が元気いっぱいのかわいいケンムンダンスを披露 した。

次に、奄美と沖縄の妖怪がどのようなものかを知ってもらうため、 奄美は金久保育所の幼児が作った「けんむんとこうみにゃ」、沖縄 は小浜晋さんの「ブナガヤってなあに」の紙芝居を行った。大型ス クリーンに絵を映し出し、それに合わせて宮崎園長ほか奄美パーク 職員が語り手となって朗読した。

次に、瀬戸内町図書館・郷土館の町健次郎さんをコーディネーターとして、ケンムンとブナガヤのトークショーを行った。奄美からは恵原義之さん、沖縄からは小浜晋さんが、ケンムンやブナガヤの特徴などを比較しながら語り合った。

次に、このイベントにあわせて行われた「ケンムン大賞」の表彰式を行った。今年はイラスト・写真部門の2部門について751点の応募があり、その中からイラスト部門は源五郎光さん、写真部門は福山由美子さんの作品がケンムン大賞に選ばれた。なお、これらの受賞作品をはじめ、応募作品全てを9月2日まで奄美の郷で展示をした。

次に、「田中一村がケンムンをどうみていたか」について、地元の一村と関わりのある方からのインタビューを基に作成された映像を紹介した。田中一村について知らない方のために当館学芸専門員による田中一村の紹介も併せて行った。

次に、アキノンとケンムンズのケンムンミニライブを行い、地元 活性化を目的とした楽曲を発表した。ばしゃ山の着ぐるみ「ケンケン」と「ムーンちゃん」も登場して会場を楽しませた。

最後に、昨年同様、ケンムン大賞と各部門の最優秀賞の作品がラッピングされた道の島交通のバスに名入れをし、バスを背景に記念写真撮影を行った。

昨年と同様、多くの来場者に恵まれ、賑やかなイベントとなった。











(3) 奄美パーク文化講演会「現世の平家物語」

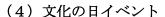
日時: 平成24年10月21日(日)15:30~17:15

場所:イベント広場 入場者数:約70名

内容: 普段奄美では触れることのできない伝統芸能に親しんでいただく ために、NHK大河ドラマ「平清盛」の芸能指導をされる薩摩琵琶 奏者の友吉鶴心さん、雅楽指導の稲葉明徳さんを招き「現世の平家 物語」を開催した。

大河ドラマの話を盛り込みながら楽器やその歴史などの話をわかりやすく解説し演奏され、普段あまり聞くことのない楽器をじっくり鑑賞することができた。友吉氏は「敦盛」「壇の浦」などの平家物語を迫力のある歌声と薩摩琵琶で演奏し、稲葉氏は篳篥、笙、龍笛などの様々な楽器の違いを説明しながら演奏し、音色を比べながら聞くことができるなど、観客は平家物語の世界を堪能した。

最後に奄美の唄者である住姫乃さんと「よいすら節」をコラボレーションし、会場は拍手に包まれた。



日時:平成24年11月3日(土)

- ①昔あそび体験会 10:00~11:30, 13:30~16:00
- ②ケンムンクイズラリー 終日
- ③田中一村ちびっ子鑑賞会 10:00~11:00

場所:①萱葺き民家(あまじいの家)内 ②奄美の郷内

③田中一村記念美術館

内容: 観覧料が無料になる文化の日に奄美パークを身近に感じていただく機会として文化の日イベントを開催した。

奄美パーク職員が指導者となり、ナンコ体験、ゆびハブづくり、機織りなどの「昔あそび体験会」や、総合展示ホール及びアイランドインフォメーションの展示物に興味を持ってもらう機会として「けんむんクイズラリー」を行った。また、田中一村記念美術館では小中学生を対象とした「田中一村ちびっ子鑑賞会」で学芸専門員と一緒に作品を鑑賞した。

朝からたくさんの親子連れでにぎわい、家族で体験を楽しんだり、 展示を熱心に見ながらクイズを解答する姿も見られ、イベントを通 じて奄美の文化を再認識してもらうとともに奄美パークの展示内容 等を充分理解してもらえる機会になった。

参加者数:(昔あそび体験会)約120名

(けんむんクイズラリー)約150名

(田中一村ちびっ子鑑賞会) 4名













(5) 第6回こどもクリスマス会

日時: 平成24年12月16日(日)10:00~11:30,14:00~15:30

場所:イベント広場

内容: ステージショーでは、ミスタードラゴンによる楽しいマジックショーを皮切りに、ロゴス腹話術研究会鹿児島支部代表者の今里好朗氏による腹話術で大きな笑いが会場を包み、続いて、おもちゃ箱から飛び出し、ダンサー達が踊り出すヂルドレンによるダンスミュージカルが始まり、子ども達も一緒に歌ったり、身体を揺らしたり、

楽しんでいた。抽選会が始まる前までのステージショーの合間合間に、サンタのかくれんぼ劇をした。司会者とサンタの掛け合いに、子ども達は夢中になっていた。

最後の抽選会も大いに盛り上がり、終始子ど も達の喜ぶ姿が見られた。







入場者数:(午前の部)約1,500名,(午後の部)約1,400名

(6) クリスマスコンサート

日時:平成24年12月23日(日)19:00~21:00 場所:イベント広場 チケット購入者数:96名

内容: 草刈とも子さんによるマリンバ,崎元譲さんによるハーモニカ, 種村久美子さんによるピアノの生演奏のほか,フラカオスタジオに よるフラダンスやミスタードラゴンによるマジックショーを食事と ともに楽しんでいただけるコンサートを開催した。

オープニングコンサートでは、マリンバや、ハーモニカ、ピアノでクラシックやポピュラー音楽を演奏し観客を魅了させた。フラダンスでは子供たちのかわいらしいダンスやクリスマスソングによるダンスでクリスマスの雰囲気を盛り上げた。マジックショーでは、楽しいトークとともに素晴らしい技を披露した。最後のデザートコンサートでは、マリンバ、ハーモニカ、ピアノをソロとトリオで演奏をし、さらにシャンソンの独唱やクリスマスソングの合唱で締めくくった。

プロやアマによる多彩な演奏,演技と多種多様な食材を利用した 料理を堪能いただき,盛会のうちに終了した。







(7) 奄美パーク新春寄席

日時:平成25年1月6日(日)13:30~15:45

場所:イベント広場 入場者数:約220名

内容: 新しい年を迎え、普段、落語にふれる機会が少ない奄美の方々に 落語を楽しんでいただくとともに、奄美パークをより身近に 感じてもらえるよう新春イベントとして開催した。

三遊亭鬼丸氏が今回の奄美大島訪問での体験談や「ちりとてちん」, 「お見立て」,「ねずみ」の古典落語3席を披露し,会場はお客様 の笑いの渦に包まれ盛り上がった。また,中入り後に,築地俊造氏 が新春にふさわしい祝い唄を披露し,会場を更に盛り上げた。

また、落語終了後抽選会を実施し、約50名の来場者に奄美パークや三遊亭鬼丸氏から提供された景品をプレゼントした。

なお、前日には奄美市主催の「紬の日のイベント」に三遊亭鬼丸 氏及び宮崎園長が大島紬を着用して出席し、あまみエフエムの生番 組に出演する等により新春寄席のPR等を行った。





(8) 冬休み小中学生限定抽選会

期間:平成24年12月22日(土)~平成25年1月7日(月)

場所:総合案内受付カウンター 期間中の参加者数:183名

内容: 小中学生の集客を図るために奄美パークのチケットを購入した小中学生が抽選できる「冬休み 小中学生限定抽選会」を行った。

1等, 2等, 3等, はずれともに景品がもらえるので、子ども達はとても喜んでおり、一度来園した家族が抽選会をするために、後日再度来園することもあった。

4 ライブステージ in パーク事業

(1) **島唄あしび in 奄美パーク** (主催: 共助会・あやまる会)

日時: 平成24年7月22日(日) 13:30~15:30

場所:イベント広場 入場者数:約60名

内容: 共助会・あやまる会主催による島唄と島口小話を主としたライブ ステージ「島唄あしび in 奄美パーク」を実施した。

出演は共助会とあやまる会の会員など約40名で、松山さおりさんの司会により進行された。

プログラムは主催者の安藤和久さんのあいさつに始まり、会員による島唄を中心に、合間には日本舞踊や三味線演奏、島口小話、六調など、全15演目、約2時間のステージが実施され、来場者は楽しいひとときを過ごした。





(2) カサン・ヒギャ・唄くらべ (主催:島唄グループゆらゆい)

日時:平成24年10月28日(日)13:00~15:20

場所:イベント広場 入場者数:約130名

内容: 島唄グループゆらゆい主催による島唄を主としたライブステージ 「カサン・ヒギャ・唄くらべ」を実施した。

出演は、カサン唄の唄者5名、ヒギャ唄の唄者4名の若手唄者と、歌謡曲の岩田幸喜さんの計10名で、司会は主催者代表の和田孝之さんが行った。

プログラムは三部構成で企画されており、第1部と第3部ではカサン唄とヒギャ唄の島唄、第2部では、歌謡曲のショーを実施し、第1部と第3部においては、司会者がそれぞれの曲の開始前に、島 唄の内容や意味などの解説を入れて来場者に分かりやすく説明する形で進行した。

第1部では、同じ島唄の曲目計5曲をカサン唄とヒギャ唄でそれぞれの唄者が披露した。第2部では、歌謡曲ショーとして、山元俊治さんが加計呂麻慕情を、岩田幸喜さんが春日八郎さんの曲を6曲披露した。第3部では、唄者がそれぞれの得意な島唄をヒギャ唄とカサン唄を交互に8曲ずつ計16曲をたっぷりと披露し、聴く者を魅了した。最後にはワイド節と六調を出演者と来場者が一緒になって踊るなどした。

全体として, 来場者がカサン唄とヒギャ唄の曲調の違いを感じる ことができるなど, 皆で楽しめるイベントとなった。









(3) 秋空に唄が舞う 瀬戸内ひぎゃ節・舞踊祭り

(主催:瀬戸内町ひぎゃ節会)

日時:平成24年11月4日(日)13:40~15:20

場所:イベント広場 入場者数:約50名

内容: 瀬戸内町ひぎゃ節会主催による島唄(ひぎゃ節)と日本舞踊を主 としたライブステージ「秋空に唄が舞う 瀬戸内ひぎゃ節・舞踊祭 り」を実施した。

出演は瀬戸内町のひぎゃ唄の唄者7名と,舞踊2名の合計9名で,司会は徳原重成さんが行った。プログラムは瀬戸内町ひぎゃ節会代表の渡哲一さんのあいさつと祝唄の朝顔節に始まり,ひぎゃ唄15曲を中心に,合間には藤川流と高千穂流の日本舞踊で構成されており,最後には,六調を出演者と来場者が一緒になって踊り,約1時間半のステージを締めくくった。来場者はひぎゃ唄の味わいを聴くことができ,楽しいひとときを過ごした。





(4) バレンタイン・コンサート (主催:赤木名中学校吹奏楽部保護者会)

日時: 平成25年2月3日(日)13:30~15:30

場所:イベント広場 入場者数:約150名

内容: 赤木名中学校吹奏楽部保護者会主催によるライブステージ「バレンタイン・コンサート」を開催した。学校の部活動成果発表を主とするライブステージとしては、今回初めての開催となった。 プログラムは、赤木名中学校吹奏楽部が中心となり、全体演奏や学年別の演奏などを披露し、会場を楽しませた。

また,合間には赤木名中卒業生による歌唱や弾き語り,そして,カッペラーズ,はまだゆかり さんの歌なども披露され,盛りだくさんの演奏や曲で会場を盛り上げた。

来場者は吹奏楽を中心に、洋楽やオリジナルソングなどを聴くことができ、楽しいひとときを 過ごした。

(5) スプリングコンサート (主催:アマービレ吹奏楽団)

日時: 平成25年2月24日(日)13:30~15:10

場所:イベント広場 入場者数:約60名

内容: アマービレ吹奏楽団主催によるライブステージ「スプリングコン サート」を開催した。

プログラムは三部構成で実施され、第1部では美空ひばりさんのメドレー、アニメソングや映画、ポップスの曲などが演奏され、第2部ではクラリネットとサックスの奏者がそれぞれ出演し、楽器の特徴、音階の幅などを紹介しながら、アンサンブルとして数曲演奏された。また、第3部では、出会いと別れ春の音楽というテーマで、春の楽曲やメドレーが演奏された。

各部の合間には、代表の関野さんから団の活動などのあいさつや、司会からは楽器の紹介などがあり、会場のお客様を飽きさせない内容で約100分の吹奏楽演奏のステージが展開された。来場者は幅広いジャンルの曲を味わい深く聴くことができ、楽しいひとときを過ごした。







(6) ミニコンサート(主催:大島高等学校吹奏楽部)

日時:平成25年3月10日(日)14:00~14:50

場所:イベント広場 入場者数:約140名

内容: 第4回大高芸術祭の一貫として,屋内イベント広場において大島高等学校吹奏楽部主催によるライブステージ「ミニコンサート」を実施した。

吹奏楽部部員の演奏により、顧問の立石先生の指揮のもと、クラシック曲やポップス曲、アニメヒロインメドレーなど、全7演目9曲の演奏が様々な楽器により披露された。

途中のテキーラの演奏では、部員を始め、来場した卒業生やお客様などの掛け声や手拍子などと合わせ、会場と一体となって楽しんだ。

その後、指揮体験として、顧問の先生から2拍子の手の振り方、大きさや速さなどの変化についての説明を受けて来場者全員で練習を行った後、3名の方が体験し、楽しんだ。最後にアニメヒロインメドレーとして3曲を演奏して約50分のステージの幕を閉じた。

会場には、卒業生や出演者のご家族などの関係者、また、地元の方 や観光客などが来場され、楽しいステージとなり、大いに賑わった。







IV 田中一村記念美術館企画事業

1 奄美関係作家展

(1) 名瀬美術協会シルバー展

期間:平成24年4月22日(日)~5月13日(日) 場所:企画展示室 期間中の入館者数:3,050名

内容: 企画展示室において, 70歳以上の名瀬美術協会会員19名の作品49点を展示した。

初日には、オープニングトークを行い、出席した9名の出品者が 絵を始めたきっかけや作品に対する思いをそれぞれ語った。展示作 品は、人物画、風景画、静物画などテーマや手法などさまざまで、 どの作品も独特な魅力を放ち、鑑賞に訪れた方々を魅了した。来場 者から「どの作品も瑞々しくて、70歳以上の方々の作品とは思え ない」という感想が聞かれた。



期間:平成24年6月16日(土)~7月8日(日) 場所:企画展示室 期間中の入館者数:1,509名

内容: 第59回県美展において入選及び入賞した奄美在住の作家らの作品,写真12点,日本画3点,洋画19点の合計34点を展示した。初日には,作家によるフロアトークを行い,出席した18名の出品者が作品に対する思いや公募展へ出品する際の気持ちなどをそれぞれ語った。今回の出品者34名のうち,4名が入賞を果たしており,全体的に質の高い作品が並ぶ展示会となった。

2 田中一村鑑賞会

日時:平成24年9月2日(日)10:00~12:00

場所:ガイダンス室及び美術館内 参加者数:35名

内容: 創作体験教室に続き,西村康博氏を講師に招き「田中一村鑑賞会」 を開催した。

始めに、ガイダンス室において、西村氏が奄美高等学校へ美術教 諭として赴任した頃、一村の作品に初めて出会った時の話や、一村 関係者らとの当時のエピソード等を話した。

その後、展示室へ移動し、西村氏による詳しい解説を聞きながら、 参加者全員で一村の作品を一つ一つゆっくりと鑑賞した。

参加者の中からは、「この作品は他のものと作風が違って見える。 どうしてか教えてほしい」などといった質問があり、細かくメモを 取りながら鑑賞している姿も見受けられた。













3 田中一村記念スケッチコンクール作品展

期間:平成24年9月22日(土)~10月8日(月) 場所:企画展示室 期間中の入館者数:1,175名

内容: 奄美群島内の幼児、小中学生を対象とし、奄美の自然や生活、行事などをテーマに募集した田中一村記念スケッチコンクールの応募作品355点の中から、入選・入賞した作品183点を展示した。 子どもたちそれぞれの感性でいきいきと描かれた奄美のスケッチ作品は、期間中、観光で訪れた来場者にも大変好評だった。

また、平成24年10月6日(土)午前11時から授賞式を行い、 受賞した幼児、児童、生徒11名とその家族が参加した。賞状と記 念品を受け取った受賞者らは皆とても嬉しそうな顔を見せ、家族み んなで喜び合っていた。





4 第11回奄美を描く美術展

期間: (本展) 平成24年10月28日(日) ~11月25日(日) (巡回展) 平成24年12月7日(金) ~12月14日(金)

場所: (本展) 企画展示室 (巡回展) 与論町中央公民館ホール

内容: 当美術展は、全国の美術を愛好する方々が奄美を訪れ、奄美の風物や文化に接し、作品を発表する機会を提供するとともに、奄美の文化振興、観光の発展に寄与することを目的として開催している。

第11回目となる今回は、全国から119点の作品(油彩、日本画、パステル、手編み、染色、切り絵、和紙)が寄せられ、審査を経て、入賞13点、入選48点の合計61点を展示した。

審査員長植田寛治氏(主体美術協会会員,横浜美術協会理事)からは,「奄美というテーマについて素直に,そして自然に考え表現している作品が多く見られてとても良かった。奄美においてこれだけ多くの人が絵を描いていること,全国から多くの作品が寄せられたことに大変驚いた。応募作品のレベルは高く,刺激的で魅力的な奄美を描く美術展になるであろう。」と総評をいただいた。

奄美をテーマに描かれた力作に、来場者は熱心に鑑賞していた。 また、与論町で開催した巡回展では、本展で展示した作品の中から38点と一村作品の複製画6点を展示した。

来場者からは「与論では本格的な絵画を見る機会が少ないため、 巡回展は非常にありがたい」という言葉をいただいた。

期間中の入館者数: (本展) 2,663名 (巡回展)約300名





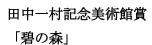


「第11回奄美を描く美術展」入選・入賞作品



奄美を描く美術展大賞 「晩秋の杜」

F15 水彩 丸山 良二郎 (鹿児島市) 木々の緻密で深みのある彩色や前景に舞飛ぶ蝶の群れの 構図が、幻想的でありながら大きさを感じる作品となって いる。



F15 油彩 中野 長子(奄美市名瀬) 堂々とした奄美の木からうねるように伸びる根の形や陰影, 木漏れ日の白の微妙な変化が素晴らしい。





鹿児島県観光連盟賞

「風は何色?」

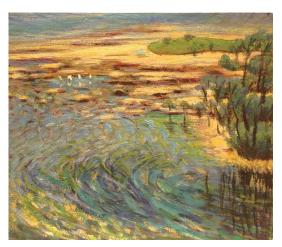
F15 アクリル あかぎ あけみ (龍郷町) 花の配置や色,背景のマチエルなど意図的過ぎず自然であ り,作者の思いが素直に重なっている。

奄美群島観光物産協会賞

「流」

F15 日本画 中村 哲郎 (奄美市名瀬) 色,明暗の配置など計算された構図と,日本画の高い技術 により自分の世界をしっかりと創り上げている。





佳作(奄美の海賞)

「干潟」

F10 油彩 林 京子(奄美市名瀬) 透けて見える海,白い鳥の水面の映りなど,美しく表現している。

佳作(奄美の空賞)

「時感12-IX AMAMI」

F 1 5 油彩 餅原 宜久 (鹿児島市)

モダンであり、色を抑え、静かで深い内面性を感じる作品である。



佳作 (奄美の杜賞)

「ガジュマルのささやき」

46×61 油彩 玉城 邦子 (喜界町) 画面に広がる木を構図に生かし、自然を誠実に表現している。



F 1 5 油彩 徳永 夏帆 (奄美市名瀬)

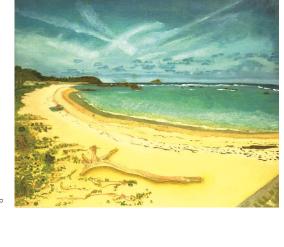
波打ち際の形,砂浜の流木や植物,雲それぞれが魅力的である。



シルバー賞

「ふるさとの香り」

F15 油彩 恵 スマ (奄美市名瀬) 絵具を厚く使った石垣の色や、咲き誇る花を見事に表現している。



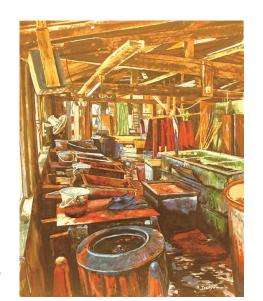


奨励賞

「今と昔」

表されている。

F15 油彩 福島 秀實 (大和村) 現在と過去の二つのイメージを怪しくも上手い雰囲気で



奨励賞

「休日の作業場」

F15 水彩 高山 法雄(熊本県) 工場の様々な素材を高い技術で描き、工場の臭いすら感じそう である。



奨励賞

「ケンムンの空旅」

63×47 水彩 則 光代 (龍郷町)

気球の細かいニュアンスや空との質感の違いを工夫し表 現している。



「タコ取り名人」

F15 油彩 岡山 良治(龍郷町) 漁師の性格を掴もうと心を込めて描き,誇張した表現も成功 している。



5 その他企画展

(1) ニッコールクラブ奄美群島支部写真展

期間:平成24年3月25日(日)~4月15日(日) 場所:企画展示室 期間中の入館者数:1,673名

内容: 企画展示室において、ニッコールクラブ奄美群島支部の会員17 名の写真50点を展示した。初日には、オープニングトークを行い、 同支部の顧問である稲光政さんが1人1人の作品について講評を行った。「奄美」をテーマに人物や動物、風景などを写した会員の力 作に会場を訪れた人々は皆、心を奪われていた。





(2) 南溟館所蔵「風の芸術展受賞作品」展

期間:平成24年7月21日(土)~8月28日(火) 場所:企画展示室 期間中の入館者数:3,248名

内容: 枕崎市文化資料センター南溟館が主催する現代美術の全国コンク ール「風の芸術展」において大賞や準大賞などを受賞し、高く評価 された作品19点を借用し展示した。

パネルに釘やパイプを直接貼り付けている作品や,窓枠を型に取り固めた作品など,様々な作風のものが並び,訪れた多くの来場者を魅了した。地元の作家の方からは「名門である風の芸術展の受賞作品を奄美で見ることができて,とてもうれしい」「衝撃を受けた。今後制作の参考にしたい」といった感想が多数聞かれた。





(3) 笠利地域小・中学校図画工作・美術科学習発表展

期間:平成24年12月2日(日)~12月16日(日)

場所:企画展示室 期間中の入館者数:1.089名

内容: 地域の小・中学校の図画工作・美術科の学習過程及び結果として の作品や資料等を展示することにより、地域住民の図画工作・美術 科の教育に対する理解を深めてもらうとともに、各学校が互いに鑑 賞し、今後の学習や指導に生かすことで、一層の図画工作・美術の 充実を図ることを目的に開催した。

昨年に続き、奄美市笠利地域の小・中学校10校の絵画・立体・ 書道などの作品を展示した。昨年と比べ各校それぞれ個性が感じら れる充実した展示内容となり、来場者は、子どもたちが作り上げた 生き生きとした作品を前に、とても感心した様子だった。





(4) 小牟禮雄一絵画展 森海のリリシズム

期間:平成24年12月23日(日)~平成25年1月14日(月)

場所:企画展示室 期間中の入館者数:2,016名

内容: 企画展示室において、大島高等学校の教諭である小牟禮雄一氏の作品39点を展示した。小牟禮氏は、奄美の森の中の岩や落ち葉などに光が差し込んだ風景を写実的に描いた作品や、奄美に自生する芭蕉やクワズイモと、二進法の0と1や素数を重ねた個性的な作品などを描いており、これまでに多数の美術展で入賞を果たしている。

島内で絵画制作を行っている愛好家ばかりでなく、様々な年齢層の観覧者が訪れ「素晴らしい」「奄美の森の中に迷い込んだような感覚だ」と小牟禮氏の高い技術の作品に感心しながら、熱心に鑑賞していた。

また,小牟禮氏は土・日に在館し,観覧者へ作品についての説明 等を行った。





(5) 短歌展 ~はらからの愛と絆~

期間:平成25年2月3日(日)~2月17日(日) 場所:企画展示室 期間中の入館者数:1,720名

内容: やけうち短歌会と龍郷短歌会の会員158名が、日常生活の風景や奄美の自然を詠んだ短歌作品293点を一堂に展示した。また、宇検村の観光地を紹介するパネルや美しい写真パネルの展示、紹介映像の上映もあり、多彩な短歌展となった。

初日は10時から出会いの広場でオープニングセレモニーを開催 した。宇検村長、宇検村教育長、短歌会講師からの挨拶や、宇検村 立久志小・中学校の児童生徒による、ギター伴奏に合わせたオリジ ナルソングの合唱があり、参加者全員で展示会の成功を祈った。

来場者は短歌作品ひとつひとつを時間をかけてじっくりと読み, 作り手の思いに深く共感している様子だった。





(6) 大高芸術祭

期間:平成25年3月3日(日)~3月17日(日)

場所:企画展示室 期間中の入館者数:2,093名

内容: 鹿児島県立大島高等学校「大高芸術祭」を開催した。今回で4回目の開催となり、企画展示室においては、同校の書道部と美術部の作品(書道14点、絵画21点)を展示した。展示作品の中には、第63回鹿児島県高校美術展において高校美術工芸研究大賞や奨励賞に輝いた力作も含まれており、観覧に訪れた方々からは、「非常に良く描けていて驚いた」などの声が聞かれた。

また、3月10日(日)に奄美の郷イベント広場において、吹奏 楽部によるミニコンサートが開催され、多数の来場者を楽しませた。





6 ワークショップ他

(1) 夏休み親子スケッチ大会

日時:平成24年7月22日(日)10:00~15:00

場所:レクチャールーム及び奄美パーク内 参加者数:38名

内容: 夏休み特別企画として講師に笠利中学校他4校で美術の臨時教諭をしている赤木明実氏を招き,夏休み親子スケッチ大会を開催した。はじめに,赤木氏からスケッチをする際の注意点や方法を学んだ後,描きたいものを探して奄美パーク内に散らばり,それぞれスケッチを始めた。暑い中だったが,参加した幼児・児童らは,思い思いに筆を走らせ,夢中になってスケッチしていた。

作品完成後、レクチャールームに集合し、それぞれの作品について、赤木氏から講評をいただいた。参加した幼児・児童の顔は、作品を一生懸命描き上げた充実感に溢れ、とても満足した表情を見せていた。





(2) 夏休み親子ワークショップ「泥染」

日時:平成24年8月19日(日)10:00~12:00,13:00~15:00

場所:田中一村記念美術館 管理棟 参加者数:合計40名

内容: 夏休み特別企画第2弾として, 奄美市笠利町で「工房しまむたび」 をされている植田正輝氏を講師に招き, 夏休み親子ワークショップ 「泥染」を開催した。

参加者らはそれぞれが用意したハンカチやTシャツに筆やスプレーを使い、シャリンバイの樹液で模様をつけた後、泥染を行い、世界に一つだけの泥染作品を完成させた。参加した子ども達は、始めは躊躇していたが、植田氏の指導により葉っぱや枝を使って、楽しく自由に柄をつけていた。また、泥を触ると嬉しそうな声を上げていた。





(3) 創作体験教室「あなたも私も一村!」

日時:平成24年9月1日(土)10:00~16:00 場所:レクチャールーム 参加者数:10名

内容: 当美術館初代学芸専門員で中央高等学校美術教諭の西村康博氏を 講師に招き,創作体験教室「あなたも私も一村!」を開催した。

始めに、参加者らは、日本画の初歩的技法である骨描き、ほりぬり、たらしこみ等を学んだ後、西村氏が用意した野草の花やグアバの実が描かれたスケッチ画にそれぞれの感性で彩色を施し、作品を完成させた。その後、それぞれの作品を一同に並べ、西村氏がアドバイスや講評等を行った。参加者の中には外国人の姿も見え、初めて体験する日本画に苦戦しながらも創作を楽しんでいる様子だった。





(4) 創作体験教室「人物画講座」

期間:平成25年2月23日(土),2月24日(日)

場所:企画展示室

内容: 西健吉先生(鹿児島県立松陽高等学校教諭・二科会理事・二科会 鹿児島支部長・鹿児島県美術協会会員)を講師として開催した。

この「人物画講座」は毎年開催しており、人気の高い講座となっている。まず、クロッキーやデッサンにより女性モデルの特徴を捉え、そして油彩や水彩で人物画の制作に取り組んだ。受講者は皆、真剣な表情で筆を走らせ、西先生の熱のこもった指導を受けながら、魅力的な作品を仕上げていた。

今回初めて参加した高校3年生のうちの1人は「始めは緊張したが、描いていくうちに楽しくなり、集中して描くことができた。参加してみてすごく勉強になった」と話していた。

参加者数: (23日) 12名, (24日) 13名





V 各種イベントポスター







奄美の郷ライブステージ



































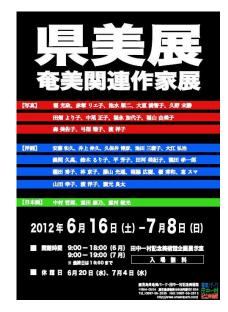










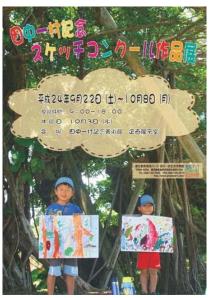






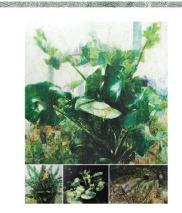
















平成25年 2月 3日(日) ~ 2月17日(日) 田中一村記念美術館 企画展示室



田中一村記念美術館 創作体験教室「人物画講座」

- ◆内容油彩や水彩による人物面の作品制作
- 平成25年2月23日(土), 24日(日)
 - 10:00~16:00 (昼食12:00~13:00)
- 田中一村記念美術館企画展示室
- ◆対 象 高校生以上
- ※2日間の参加を原則とする。 20名 要申込
- ◆指導者 西 健吉(二科会應児島支部長, 施児島県美術協会会員)
- ◆参加料 無料
- ◆準 備 F8号~F15号のキャンパスもしくは紙を貼ったパネル、 スケッチブック、油彩囲もしくは水彩画の温具、鉛棒や 木炭などの搭画材、最大 ※ イーゼル、カルトンは美術館で用意します。





大高芸術祭

3月3日<mark>員</mark>▶3月17日<mark>員</mark>

作品展 内容:書道部・美術部の合同作品展 日時:3月3日(日)13:00より ~3月17日(日)14:00まで 場所:奄美パーク田中一村記念美術館 企画展示室(入場無料)8歳13/6

主催 鹿児島県立大島高等学校 0997-52-4451

VI 奄美パーク応援隊について

(1) 結成目的

鹿児島県奄美パークの活動を支援することにより、魅力ある奄美パーク実現の一助とし、 ひいては奄美群島の観光の発展に役立てる。

(2) 隊員数

63名(平成25年3月31日現在)

(3)年間活動回数(延数)

101回(平成25年3月31日現在)

(4)活動内容

奄美パーク応援隊は奄美パーク内のガイドをすることを目的として平成15年に発足した。現在、展示案内ガイド、手熟ガイド、園芸サポーター、一村サポーターという4つの分科会で構成され、それぞれ得意な分野で活動しているが、このうち展示案内ガイドのみ研修が義務づけられている。

隊員には登録証を発行し、年2回以上の活動を義務づけている。なお、登録証は奄美パークのフリーパスになっており、応援隊の活動時以外にも提示すれば、 奄美パークの有料ゾーンに入ることができる。

月に一度配付する「応援隊通信」には活動の予定や 奄美パークの行事予定,活動報告などを掲載している。 ブログ等で随時活動の様子を報告している。

(5)分科会

ア 展示案内ガイド

奄美の歴史や文化,自然,島の暮らし,観光ポイントなどの紹介。田中一村記念美術館における鑑賞のポイントを案内する。(8名)

イ 手熟ガイド

機織り、三味線、太鼓、ナンコ、ソテツ編み等、島に伝わる遊びやモノ作りを通して島の紹介をする。 (33名)

ウ 園芸サポーター

奄美パーク園地の植物を管理する。(21名)

エ 一村サポーター

田中一村記念美術館の企画・展示をサポートする。(13名)

(6)活動内容・実績

ア 展示案内ガイド

月に一度,隊員に来園状況予定表(団体の予約状況)を送付し,来園が可能な日にガイドを行ったり, 時間のあるときに来園して個人のお客様を案内している。

また、団体のお客様からガイドの要望があった時も対応している。

イ 手熟ガイド

各隊員がそれぞれ来園できる日に来て、実演してもらっている。現在、 三味線など島唄関係の手熟ガイドが多数。民家での三味線実演などが好評で ある。

ウ 園芸サポーター

主に奄美パーク園地への植栽を中心に活動している。月に1回または2回の作業日を設けて園内の整備をした。今年度も一昨年から引き続き「花かごしま2011」の協賛会場である出会いの広場を中心に草取りなどを行った。また、応援隊の花壇には様々な植物を植栽し、レストランから見える花壇にはたくさんの花が咲き、お客様から好評である。今年は出会いの広場にパッションフルーツの棚を作成した。残念ながら台風などで実はならなかったが、来年度は潮や風に強い植物を植栽したい。





エ 一村サポーター

田中一村記念美術館の企画展示作業のサポートを行う。

オ その他の活動

(1) 六調三線の練習

平成23年3月から有志が集まり、六調三線を練習している。団体の 見送りなどで練習の成果を披露するなど、活躍している。

(2) 展示案内ガイドデモ

展示案内ガイドデモはガイドに慣れていない隊員のため、ベテランのガイドや職員と一緒に随行案内をし、ガイドに慣れてもらうことを目的に行っている。





鹿児島県奄美パーク事業報告書

リーフ

第 11 号

2013年4月発行

編集·発行 奄美群島広域事務組合

(鹿児島県奄美パーク)

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田 1834

TEL 0997-55-2333 FAX 0997-55-2612

應児島県

奄美/(一/

奄美の郷・田中一村記念美術館

鹿児島県奄美市笠利町節田1834

TEL: 0997-55-2333 http://www.amamipark.com/